

平成27年度川崎市地域自立支援協議会第1回全体会議 摘録

日時：平成27年7月23日（木）13:30～16:30

場所：川崎市役所第3庁舎15階第1・2会議室

出席者：赤塚会長、北島副会長、荒木委員、加藤委員、住舎委員、船井委員、吉澤委員、渡邊委員
※大窪委員、佐久間委員欠席

事務局：栗野、小川、小田川、坂本、湊上、中里、野原、牧田、松澤、阿久津、川上、林田

行政：障害保健福祉部左近部長、障害計画課川島課長、地域支援・療育係神林係長

地域包括ケア推進室福芝室長、地域包括ケア推進室河合課長、地域包括ケア推進室菅野係長

傍聴者：6名

1 開会あいさつ

（河合課長より資料確認及び開会のあいさつ）

2 委員・事務局紹介

3 会長・副会長の選任について

4 行政報告

（川島課長より、第4次かわさきノーモライゼーションプラン完成の御礼）

（菅野係長より、次の資料に基づき説明。）

「川崎市地域包括ケア推進ビジョン【概要版】」

赤塚会長	何か質問はあるか。最後に社会福祉協議会について話があったが、地域包括ケアシステムの構築においては、市民一人一人への個別の支援と同時に地域づくりが大事。地域づくりということを考えると社会福祉協議会は欠かせないと思う。市と区の社会福祉協議会がどういう役割を担うかが大変重要であると思う。自立支援協議会でもこれまで地域包括支援センターや社会福祉協議会と色々連携をとってやってきているが、区によって少し違いがある。これから益々そういったことが重要になっていくと思う。
------	---

5 各区地域自立支援協議会について

（資料2に基づき川崎区より順番に説明。）

各区の協議会の取り組みについて質問や感想

赤塚会長	昨年度最後の全体会議で皆様から頂いたご意見を事務局会議で確認し、各区の基幹相談支援センターが中心になって、今年度の取り組みについてこのようにまとめ、始まったという報告だった。個別課題の対応はもちろんだが、話を聞いていてキーワードとすると「地域」「つながる」あるいは「当事者」ということが浮かび上がってきた。地域
------	---

<p>委員</p>	<p>の様々な団体との関係を強化する、交流やネットワークといった様々な言葉が使われていたが、関連団体だけではない地域の様々な企業との関係をもっと作っていこう、地域にもっと根ざしていこう、そして地域活動に区民として参加していくという視点もあった。それから当事者やご家族との共同についてどうするかということについてももう一步踏み込んだ取り組みをしていると感じた。児童期の相談支援についても今後の課題として挙がっていたが、各区の事情に応じて取り組みが始まっていると聞いた。自立支援協議会の活動を地域の人達に分かり易く発信していく努力工夫もあった。他にも色々あったが、今年度もスムーズに始まったという印象を受けた。質問等はあるか。</p> <p>今年度から区協議会メンバー構成が教育機関や児童関係機関などの項目になっているが、協議会事務局の方から参加して頂きたいという考えで統一した意見で、参加していないところもあるがこれから働きかけていくという認識でよろしいか。</p>
<p>会長</p>	<p>前年度の第3回全体会議で児童期の方へ区の段階でできることがあるのではという話があったので、それへの対応ということによろしいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご質問の通り、その辺りも含めてこの後の、3月にこども部会の方から提案のあったところで詳しく回答はさせていただくが、各区の実情で立ち上がりかけているところもあって、何が問題かというところで児童期の課題を取り扱うにあたり必要な関係機関ということでこういう形にさせていただいた。参加していない区について、これからどうするかはこの後詳しく説明をさせて頂きたい。</p>
<p>委員</p>	<p>区協議会の構成メンバー表について感想だが、一番上に当事者、次に相談支援センターが記載されているが、相談支援センターというどちらにせよ事務局の役割が多いと思うので、市の自立支援協議会の構成メンバー表でも一番下に書かれているのでこの場合も含めて一番下でも良いのではという感想をもった。</p>
<p>委員</p>	<p>いつも当事者団体についてお話させて頂いているが、今回先生が言っていた通り公募されているところも多く、当事者参加について積極的に進んでいると感じた。多摩区について当事者の参加を何期から何期として公募しており、2年任期、意思があれば継続ということか。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃるとおり、2年任期で継続もある。人数も増えている。</p>
<p>委員</p>	<p>発表を聞いて今年も期待が大きい。田島支援学校では昨年度、幸区・川崎区の自立支援協議会の皆様に生徒会と話していただいたり、家庭教育学級で相談支援や成年後見制度の話をしていただいたりと、参加者も多く、素晴らしい活動をして頂いている。保護者への周知として今年度も是非お願いしたい。それと同時に、教員と市区自立支援協議会について参加していると話していても反応が薄い現実がある。宮前区で教員対象の講演会をするということだが他の区でも協議会の方から周知してもらえると良いと思う。また、保護者の中で成年後見制度と障害者年金について、知りたい、手続き等しなければいけないという意識はあるが、どこから何をすれば良いか誰に相談すればよいのか全く分からず不安に感じている方が多い。相談支援についても同様である。この辺りのテーマは先生がどうにかすることではなく専門性がある人物が保護者に対してしっかりと説明をしたほうが分かりやすいし安心感があると思うので、この点について今後各区</p>

赤塚会長	<p>協議会にとり入れてほしい。</p> <p>やはり児童期の課題である。この後のこども部会報告でお願いしたいが、自立支援協議会ではこういった声を受けて区の中でどのようにしたら不安感を払拭できるのか課題に取り組んでいただきたい。ここまで区の報告である。障害では自立支援協議会がこのような進んでいるが、地域包括ケア推進室から意見や感想はいかがか。</p>
福芝室長	<p>赤塚会長がおっしゃる通り、「地域」や「つなぐ」、「地域に出る」といったキーワードは地域包括ケアと同じキーワードである。例えば、川崎市であれば、今後の区の体制として、フロント部分ということで役所の窓口のみならず、表に出るそういったところと、色んな課題について行政が出向いて発見し適正につなぐ、そういった推進体制を目指しているので大変参考になった。</p>
赤塚会長	<p>先日とあるシンポジウムに参加した際に白澤先生の地域包括ケアについて話を聞いたが、正に障害の方がやってきたことだった。これは地域全体でということをおっしゃっていた。それから二木先生も今の時代の中で何故これが必要なのかという話をしていた。私達もこれまで地域包括ケアについてなじみが薄かったかもしれないが、必要性を踏まえて今まで実践してきたことで川崎市全域に障害の方からも発信していく、そして高齢も含め全体を通して安心して暮らしていくにはどうしたら良いかを考え、各区の自立支援協議会も取り組んでいただきたい。</p>

【休憩】

6 専門部会について

(吉澤委員より資料3-2に基づき説明。)

(船井委員より資料3-1に基づき説明。)

(事務局より資料3-3に基づき説明。)

専門部会の取り組みについて質問や感想

赤塚会長	<p>研修部会、相談支援部会それぞれ5~7月の3ヶ月間部会が開かれたが、研修部会の方からは私達が目指す相談支援従事者像というものが改めて提案された。支援は誰の為のもので支援者としての役割は何なのか、その役割を果たせる支援者である為にどのような学び研修が必要なのかということ。更に支援というのは一人ではできず、環境との関係が大きいということを理解した上でやっていく。これを大前提としてこれから体系化していくという考えでよろしいか。</p> <p>相談支援部会が策定したガイドブックあるいは相談支援部会の考え方もすり合わせながら体系化を図っていく。体系化というのは、川崎の場合ではキャリアパスとの関係もあるので、そういう風に進めていきたい、相談支援部会の方では修正を加えたガイドブックをVer2として出したが、これを使っていきながら検討していくということでもよろしいか。相談支援の質の向上の為の評価が難航しているようだが、自己評価については評価の組み立てから考えた方が良いということで、もうワンステップにおいて全市対象評価に進みたいと、利用者評価については当事者の意見を頂いて、これはもうできて</p>
------	---

事務局 赤塚会長	<p>いるのか。</p> <p>これから検討を行う予定。</p> <p>では材料が集まったというところなのでその線でいけるのではないかという話だった。以上から相談支援部会、研修部会についてご意見はあるか。</p>
委員	<p>話の内容が増えるかもしれないが、ガイドブックをみると障害者のケアマネジメントの定義など色々記載されているが、私も障害を持っている為にヘルパーを利用しているが、自分でどこかに相談するというのであれば福祉事務所などで今のところ済んでいる。例えば先日同じ障害の仲間から連絡をもらい、ヘルパーさんの資質について相談を受けた。ケアマネジメントを受けて支援計画を立てたが計画通りにできないという日々が何カ月も続いたが、それについて言うところがどこにもないと困っている。こういう相談もしてよいのか。</p>
赤塚会長	<p>ガイドブックの内容から離れるがこういう相談を相談支援事業所にしてよいのかということか。</p>
委員	<p>相談して大丈夫である。ご本人がサービス提供責任者・ヘルパーへ直接伝え、ご自身で調整している方もいるが、言いにくいという場合でも相談支援事業所へご相談頂ければ調整する旨を伝えている。</p>
赤塚会長	<p>この相談支援ガイドブック自体、基本的な内容で相談支援に従事する人たちに見てもらいたいということで作られた。様々なバリエーションの相談があるわけでそれをどうするかについて記載は無い。ただ、そのような相談があるのは確かであると思う。様々な状況に対応できるような内容を考えてほしい。</p>
委員	<p>今話を聞いて、(相談支援部会の自己評価について)話したいことが2点ある。事業所としての自己評価について、自身も障害福祉に関わる仕事をしている上で自分たちの評価をどうするかというのは大きな課題である。個人的には一つ、利用者さん達との関係性を評価する、利用者さんの思いだけというよりは、自分たちがどうしたときにどうなったかという点を細かく、言葉一つ態度一つで感じられることが変わってしまうという関係性を自分たちが冷静にみられるかどうか大きな力になっていくと思う。そこを納得できるとお互い楽になれると思う。試験的に行った評価結果の中で質問の意図が分からず部会が驚かれた反応をされたとき、そこを突っ込まれると私達は辛いところなのだと思う。そういうところこそ、勉強会等で積み重ねていく部分だと思っているので頑張っていきたい。もう一つは、なんでも相談してくれていいとは言いが、当事者はそこまで正直に言えない。やはり代弁者が必要。相談支援の中で代弁しようという気持ちが重要であると日々感じている。それが自分の仕事になると思うし、高齢のメンバーは少ないが、自分の親の介護をしていて回りはしっかりしているというが昔と比べると言えなくなってきていると感じる。研修内容には悩むが重要だと思う。</p>
赤塚会長	<p>すごく大事なことで、基本目標のところのを見ると本人の思いを受け止めとある。本人の意思を受け止めるというのは大前提。だけでも意思形成やそれを伝える支援というものをしてもらうのかということ。それについてはあまり語られていない。代弁者は一人でないかもしれない、その人に関わっている全員で考えていくもしかしたらチー</p>

	<p>ム形成かもしれないし、アウトリーチのような手法かもしれない。手法までまだ踏み込めていないが重要なところである。最初にある関係性を評価する、何をもって評価するか、これも本人主体で本人の思いを受け止める、どこの事業所も「やっている」という。決まり言葉であり、やってないとは言えない。では本当にどうすることが本人の思いを受け止めることになっているのかそれをどこでみるのかというところ。だからこそ自己評価は難しい。聞き方によってはみんな〇（マル）になっていたりしてしまう。自由記述が出てこないというのは、自分たちの実践をどういう風に振り返っているのか見ているのかということにつながる。評価を作るときはそういった視点をいれながら誰が見ても「ここが大事なんだ」とわかりながら評価できるような形、それが関係性といった重要な一面であると思う。</p>
--	--

(こども部会より説明)

赤塚会長	<p>先ほど各区の報告の中で児童についてそれぞれの事情に応じたあるいは取り組みやすい方法でしていきたいとあったがそれは事務局会議で確認し決まった。それから川崎市への提案の方ははっきりした提案内容はあるがこれについては皆さまのお手元にある昨年度の第3回摘録、これをこども部会として市へ提案していただくのはいいが、市の自立支援協議会としてこのままということではなく少し検討が必要というところで終わっている。それで事務局としてどうなのかをもう一度検討したいということ。私の発言でも書いてあるが、もしこういう風にするのであればもう少し時間をかけて協議をス行う必要がある。そういうことでこれも事務局にお任せしてより検討を進めて頂くということで良いか。</p>
------	--

7 事務局会議ワーキングについて

(事務局中里氏より〈資料4-1〉「広報ワーキング」に基づいて説明。)

(事務局淵上氏より〈資料4-2〉「課題整理ワーキング」に基づき説明。)

(事務局栗野氏より〈資料4-3〉「連絡会議ワーキング」に基づき説明。)

(事務局野原氏より〈資料4-4〉「手引き改定ワーキング」に基づき説明。)

事務局ワーキングの取り組みについて質問や感想

(広報ワーキングより説明)

委員	<p>説明の中にあっただかもしれないが、発信までのルート確認について再度説明願いたい。</p>
事務局	<p>協議会の中で広報誌を出すにあたり最終的には行政にも合議を得た上で出す形が多いが、それが区によって違いがあるようなので確認したいと思っている。</p>
赤塚会長	<p>今日は地域包括ケア推進室より話があったが、どういう関係をもって広報したら良いか考える必要がある。機会を見つけて相談を、社会福祉協議会との関係等をもし持つとしたら地域包括ケア推進室も関わってもらった方がいいのか、相談しながら進めてはどうか。</p>

事務局	<p>会長から一言頂きまして、広報ワーキングとしては各区広報について事務局的な役割を果たしていく中で社協さんなどを含めてより効果的な広報の在り方とは何かということ各區全体で情報共有して、協議会の活動をしてもらうために活動していきたいと思っている。</p>
-----	---

(課題整理ワーキングより説明)

委員	<p>一番下学習会等に取り組む際は一つの区で取り組むよりも、というお話があったが、正に私も感じているところ。非常に素晴らしくありがたい着眼点だと思う。田島支援学校は川崎区・幸区の2区だけだが、協議会と行政窓口の取り組まれていることが全く違うため、幸区では行っているが川崎区では行っていないなど保護者の間でもどうなのだろうと話題にあがる。別の連絡会などに出席すると他校は更に多岐にわたって区をまたがっているが、そうすると自分の居住区と学校の区が違う、自分はどこの区を基準にみればいいのかという保護者もいる。そういった点で同じ学校内に複数の居住の方がいらっしゃる現実があるので是非この取り組みは進めていただきたい。</p>
委員	<p>今度8月に県立麻生特別支援学校の夏の学習会でやるが、これは横浜市の方と一緒に実施する。これに横浜市の情報が加わって先生方に向けた学習会をする。興味を持っていただけているとずいぶん感じられるようになった。これを始めた4年ほど前では興味が向いていない感じがあったが現在は明らかに興味が向いてきていると感じるとともに、先生方からもこれが知りたいという思いを感じる。積み重ねていけば確実に進めるというのは実感しているところなので、皆で継続的に実施できれば良いと感じている。</p>

(連絡会議ワーキングより説明)

赤塚会長	<p>イメージとすると連絡会議は全市対象で、先ほどは小さな学習会などについて枠を超えてやりたいということでそういうものもありつつ連絡会議としてはここにある位置づけに向けたものをテーマとして実施するということである。</p>
------	---

(手引き改定ワーキングより説明)

委員	<p>最後にお話があったところでどこから課題をとるかという時に個別支援会議、ここまで来ている人は会議にのっている人ですから、もう一つ下が一番重要なところで、どうやって相談につなげていくか、ということなのでこの下にもう一段か二段つけていただくのが良いかと思う。</p>
赤塚会長	<p>個別支援会議というのは、その後これが出来た後で、サービス等利用計画その後個別支援計画となったのでそれをイメージしがちだが、これは色んな相談があり、本人と一緒に考えていくという会議である。そのため個別支援会議という名前を変えた方がいいかもしれない。そこへつながるまでが相談支援の重要なところであり、それがきちんとできればいろんな人が相談へつながるようになる。</p> <p>専門委員会について、特定の領域に関しては専門委員会を立ち上げた方が動きやすいのであれば、専門委員会が行うということか。</p>

事務局	決して箱ありきではなく、動きやすい形というのがやはり専門委員会になるのであろうと想定している。現在検討中。現状、区ではワーキンググループや係という名称で専門委員会ほどの活動ではない規模の活動を行っているものがある。
赤塚会長	(当日資料P28の)川崎市の箇所にある「検討」は何を指すのか、考えてほしい。他に意見はいかがか。
委員	相談支援ガイドブックP56に記載されている川崎市の地域自立支援協議会の体制を変更することになるのか。
事務局	今回配布の資料は、課題抽出から解決に至るプロセスを示しているものとして考えていただきたい。
赤塚会長	相談支援ガイドブックの次回改訂時に、この流れを掲載しても構わないと思う。
委員	区ごとのサービス調整会議や相談支援調整会議でも課題が出ていると思う。そこからの流れも考慮してはどうか。
赤塚会長	課題がどこからあげられるか、検討をよろしくお願ひしたい。 また、全体会議の資料は全体会議の少し前にいただけるようお願いしたい。 今年度1年かけて検討したいと提案があった部分は、自立支援協議会は何をやるか、ということである。市としても、自立支援協議会の位置づけ、地域包括ケアシステムとの関係について、頭に入れながら今後も活動を行っていただきたい。

8 その他

特になし。

9 閉会

(障害保健福祉部左近部長より閉会あいさつ)

以上